

### 1. 労働組合、更なる最低賃金UPを狙う

労働組合が求める最低賃金の額である 160 ドルがなかなか実現しない中、組合は来年さらに最低賃金の要求額をあげることを発表した。その額は 177 ドルだ。National Independent Federation Textile Union of Cambodia (NIFTUC) で代表を勤める Ken Chhenglang 氏は、「10 組の労働団体が先週話し合いを行って、金曜日に予定されている会議では、雇用者側に 177 ドルを要求しよう、とその場で同意しあったようです」と話す。現在の最低賃金は 100 ドルで、政府はこれ以上の賃上げを要求するストライキを鎮圧するために、今年 1 月に警官隊を派遣し鎮圧し、死者を出している。Chhenglang さんは、新たな要求額について、危惧している。「政府はほんのすこしずつしか最低賃金を上げようとしないうことを、私たちはすでに知っています。10 月に、労務省と労働組合、雇用者の間で三者協議が行われる予定ですが、それまでいづらが、要求額がはっきりしないでしょう」と彼女は話す。

Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union の副代表 Kong Athit さんは、「最終的には 177 ドルよりも低い額で落ち着くと、労働組合も分かっているでしょう。ただ、どこまで近づくことができるかが問題です」と話した。労働組合の用意した書面には、「カンボジアの産業の大きさや、隣国での最低賃金の額を踏まえると、177 ドルは妥当な金額だ」、といったことが書かれている。「タイでは 237 ドル、インドネシアでは 74~219 ドル、フィリピンでは 152~273 ドル、マレーシアでは 245 ドル~275 ドル。カンボジアと比べてみてほしい」、とも書かれている。

Garment Manufacturers Association in Cambodia secretary-general の代表 Ken Loo 氏は 177 ドルの最低賃金は非現実的だ、とした上で、「理由は、160 ドルを要求していたときに述べたものと変わりません」と話した。GMAC は、そういった最低賃金の要求が、工場の経営者達を苦しめている、と以前に発言している。Loo 氏は、「一体いくら額が正しいのかを決めるにはまだタイミングは早すぎます」と付け加えた。

### 2. どうなる最低賃金

縫製業界の労働組合は、「もし来年までに、たったの 115 ドルまでしか賃金が上がらないようであれば、再びストライキを行おう」、と呼びかけた。この 115 ドルは、Garment Manufacturers Association in Cambodia が同意した額である。雇用者と政府、労働組合の三者で構成された The Labour Advisory Committee (LAC) は、10 月には新しい賃金を設定できることを目指している。

National Independent Federation Textile Union of Cambodia の代表 Ken Chhenglang 氏は、「労働組合側は、最低賃金を現行の 100 ドルから 177 ドルまで引き上げることを求めています。GMAC が代わりに提案したのは 115 ドルです。この額からスタートして少しずつ増加させ、最終的には 2018 年、160 ドルを目指します。もちろん、抗議は発生するでしょう。115 ドルで諦めることはできませんから」と話す。

Collective Union of Movement of Workers 代表の Pav Sina 氏もまた、ストライキを奨励することに対して肯定的だと話す。しかし、LAC の副議長や、労働者代表の Chuon Momthol さんは、「互いに同意する道はある。抗議活動は避けるべきです」、と話している。

GMAC の事務局長 Ken Loo 氏は、115 ドルが提案されたことについて否定する。「最低賃金の増加に関して、12 月 24 日に行われた LAC の決定を思い出すよう、彼らに示しました」、と話す。

### 3. 労働者への社会保険適応間近か

長い間の念願であった、縫製企業含む民間企業への社会保険企画が、ついに現実味を帯びてきているようだ。8/06、労務省はパブリックフォーラムを開いて社会保険について話し合ったが、これが実現すると 80 万人もの雇用者に保険がつくことになる。National Social Security Fund の Som Sophorn 氏は「法令は現在、審議中の段階です。社会保険ができると、雇用者にとっては義務になります。今年下旬から始めますが、まずはプノンベン周辺の工場から適用していきます、その後、少しずつ地方へも広がっていきます」と話す。現在、基金が管理しているのは仕事で発生した病気や事故のみで、このサービスのために労働者の給料からは 0.8% が差し引かれている。新しい保険システムも似た仕組みでスタートさせる準備をしている。しかし NGO 団体 CLEC の Moeun Tola 氏は、「労働者はすでに税金を支払っているのだから、雇用者側がお金をカバーするべきです」と話す。GMAC の Ken Loo 氏も、「保険は、私達が従うべきシステムです」と話している。

### 4. Vantage River Textile 工場でストライキ終結

Preah Sihanouk 州の Vantage River Textile 工場で、7 人の労働組合代表が解雇されたことをめぐって抗議活動を行っ

ていたが、8/07、300ドルの保証金にそれぞれ同意をした。

労働組合と会社、労働者の3者が出席して、3時間にわたって行われた交渉の結果、保証金が支払われることになり、ストライキは終結することになった。労働者代表であり、解雇された22歳のKeo Srey Pichさんは、「会社側は、私達に保証金を支払い、また、他の要求項目についても解決を約束する、と言ってくれました。私達労働者には、お金が必要ですから、受け取ることに決めました」と話す。Preah Sihanoukの労務省勤務Yov Khemra氏もまた交渉の場に参加していたが、8つの項目の全てに対して同意が行われたという。この中には、ストライキに参加していた労働者達の給料は減額で支給される、との項目もある。Vantage Riverの労働者達がストライキを始めたのは6月31日、組合の設立に関わっていた10人が解雇されたことが原因であった。このうち3人は、これより前の段階ですでに保証金を受け取っている。労働者達は、工場経営者側は残業を強いるなどして労働者の権利を侵害していた、と主張。一方経営者側は、労働者を解雇したのは仕事にたいして熱心でなかったためだ、としている。

## 5. フリーダムパークが再開放へ



半年以上閉鎖していたプノンペン市のフリーダムパークが、8/06の朝ついに、再び一般へ開放されるようになった。長いあいだ閉鎖されていたが、結局理由も曖昧なままであった。100人を超えるDaun Penh地区の警備員や警官隊は、これまでフリーダムパークの開放を求めて抗議する市民に対して、殴ったり蹴ったりの暴行を行っていたが、8/06の朝8時、ついに彼らは公園を取り囲むバリケードを撤去した。フリーダムパークの再開放は、カンボジア救国党と人民党が政治的膠着を突破するために行った同意のうちの一部で、前日に野党の議員が国会議会において宣誓をしていた。救国党議員のMu Sochua氏は、個人的に何度かフリーダムパークの開放キャンペーンに足を運んでいたようで、「フリーダムパークが開放されたということは、カンボジアに自由が帰ってくるサインです。フリーダムパークは、集会や表現の自由、民主的政治の象徴ですから。公園に限らず、抗議活動が全面的に認められていくでしょう」と話した。

フリーダムパークは2010年に、表現の自由や集会の自由をもっと市民に奨励するよう設立されたものだったが、今年1月から政治的な理由によって、集会や抗議活動を目的とした立ち入りが禁止となっていた。しかし5月1日労働記念日デモの前日、刃のついたフェンスがフリーダムパークを取り囲んで設置され、全ての市民の立ち入り禁止が始まった。先月、フェンスを撤去するよう求めて抗議活動を行っていた市民達は、警棒を持った警備員たちに対抗し、暴動に発展する事件があった。救国党所属の7人の議員が、その暴動との関わりを疑われ逮捕された。このうち3人はまだ拘留中で、開放された4人は尋問を受けるため、1週間のあいだ代わり替わりに裁判所に呼び出されたという。開放されたメンバーの中には、救国党の副リーダーKem Sokha氏もいた。

以前政府は、フリーダムパークの再開放に関しては、1月頭に発生した死者の出た暴動の件などをきちんと調査してから決定する、と発表していた。そしてその調査が1カ月ほど前に終わったのだと、何人かの政府職員が述べている。しかし公式には、調査結果に関連した発表は一切されておらず、フェンスも昨日撤去されてしまったので、これ以上調査に進展もないものと思われる。シティホールのスポークスマンLong Dimanche氏は、「政府はまだ調査を続けていますが、秩序が再び安定したため、フリーダムパークは再び開放されることになりました」と発表。

Sochuasi氏は、「一体調査がどうなっているのかはわかりませんが、救国党がコントロールしているHuman Rights Commissionが、これから調べていくでしょう」と話している。一方、地元の市民はフリーダムパークのやっとの解放に沸き立った。屋台を営んでいるSiv Linさんは、彼女の売上はフリーダムパークの封鎖によってかなりの打撃を受けていたという。「以前は一日に30万リエル(75ドル)は売り上げていました。でもいまは、1日たったの4万リエル(10ドル)しか稼げません」と彼女は話す。フリーダムパーク解放のデモ活動に頻繁に参加していたPhuong Cheaさんは、「今回の解放によって、再び私たちは自由を表現することができるようになります」と話す。

Council of MinistersのスポークスマンであるPhay Siphanさんは、「フリーダムパークは公共施設である一方、実際政府はここでグループ活動をするのを禁止するつもりです」と話す。Cambodian Center for Human Rightsの議長であるOu Virak氏は、「フリーダムパークが解放されたのはただそれにあるシンボル性を復活させるためです」と話した。

## 6. 国家進級試験でカンニング対策が強化



1年前、Sam Sophatさんは事前に少額の賄賂を支払って、国家進級テストの試験場へ、回答が書かれた紙を袖のしたに入れて持ち込むことに成功。彼にとって、12年生に上がるための大切な試験だった。8/05、2日間に渡って行われるテストの初日であったが、試験会場に入る前の18歳Sophatさんは、「本当に私はついていません」と話した。もう何年も、アンサーシートが流出しカンニングする、という状況

が続いていたが、今回から違反が厳しくチェックされるようになったという。9万3千人を超える受験者は、入室の際にポケットをチェックされてアンサーシートや携帯電話は全て没収されることとなっている。しかしそれでも、何人かの生徒はチェックを上手くぐり抜けて、カンニングをする。また、教育省の Hang Chuon 氏の発表によると、別人になりすまして試験を受けようとした生徒も、昨日だけで3人ほど見つかったという。2人は Kandal 州、もう1人は Svay Rieng 州の出身であった。試験を受けるはずだった本物の受験者3人は自動的に失格となり、さらに以後2年間試験を受けることが禁じられたという。Kampot では、隠し持っていたスマートフォンを試験中にコソコソと盗み見ていた受験者がモニター越しに発見され、退場になった。

Transparency International の Kol Preap さんは、「アンサーシートや、携帯電話を持ち込もうとする生徒は、たくさんいます。でも、カンニングに成功する生徒の数は格段に減っています」と話す。NGO が調査したところによると、去年のテストでは、試験官から試験のコピーを入手したり、アンサーシートの持ち込みを許可させたりするために、合計で50万ドル以上の賄賂が行われていたという。「しかし今回、テスト作りには政府が採用した少数のメンバーしか関わらないようにすることで、流出を防ぎました」と Kol Preap 氏は話す。

そんななか、どういうことか出回ってしまった試験のコピーは、政府によって偽物であると発表。これを作成したのは Takeo 州に暮らす印刷屋の2人組で、偽のテスト用紙を作成して、5科目セット100ドルで売っていたとのことだが、彼らはすでに逮捕されている。Facebook 上にある This Year's Grade 12 Exam というページで、「ある試験官が化学のテスト用紙を受験者達に売っている」、とのクレームがあったが、すぐに教育省によって「そのテスト用紙に信ぴょう性はない」と発表して対応した。Cambodian Independent Teacher's Association 代表の Rong Chhun 氏は、「本物のコピーが漏出していないか、念の為に調査をしています。Prey Veng 州では歴史のテストのコピーが売られていた、との話を聞きました」、と話す。

プノンペンにある Chaktomuk Secondary School で行われたテストでは、18歳の Bopha さんとクラスメートは、方程式がびっしりと書かれたカンニング用紙をこっそり持ち込むために、どうしたらいいかを話し合っていた。彼女達は、ポケットが本当に空で、違反となるものは何も持って入っていないと全員が試験官によるチェックを受けるためだけに、1時間以上も待機しなくてはいけなかった。小さな紙くずでさえ、没収された。Bopha さんは、ズボンについているウエストバンドに、なんとかカンニングシートをしまい込むことができたが、チェックを待っているうちに怖くなり、友人と話し合っただけで結局ゴミ箱に捨てたという。「今年のカンニング対策の厳しさは、異常です」と彼女は話す。

## 7. 8/8 クメール・ルージュ時代にひとつの区切り

8/08、およそ3年間にも及ぶクメール・ルージュ裁判の判決が、かつてカンプチア民主党のシニアメンバーであった Nuon Chea 被告と Khieu Samphan 被告に対して下された。人類に対する権利の侵害で、どちらも終身刑を言い渡された。殺人や政治的迫害、強制移動などの非人道的な罪は、2回に分けて行われ、強制的な集団移動の過程のひとつとして行われた。同時にロン・ノル政権で働いていた役人も、Tuol Po Chrey という場所で何百人と処刑されていた。



プノンペンからの強制移住は、人口移動の第一段階として行われ、強制移住について裁判官は、「恐怖と暴力で市民を支配し、およそ200万人の市民を無理やり都市から追い出した」、と述べた。そして2回目の人口移動はその1ヶ月後から始まったが、その際の移動もまた、恐怖と暴力によって人々は支配されており、逆らったり質問をしたりすることは許されず、その状況はまさに遺憾極まりなかったと述べられた。人権が完全に破綻していた当時の状況を踏まえると、強制移動に追いやられた人々には何も決定することはできず、そのため軍人の命令に従わざるを得なかったと述べられた。

「トゥオル・ポ・チュレイ」は、ロン・ノル政権で働いていた生き残りを繰り返し殺していくための場所であり、「トゥオル・ポン・チュレイの犠牲者達は、その頃にはクメール・ルージュに対抗しようなど思っていなかった。彼らはトゥオル・ポン・チュレイに埋められるか、池につきおとされた」と語られた。Nuon Chea 被告と Khieu Samphan 被告は、共同犯罪企画(JCE)加担の罪を問われていた。そして、社会主義革命を、まったく必要でない異常な手段をとることによって実現させようとした。Chea 被告は、また、トゥオル・ポ・チュレイでも大きな役割を担っていたとされ、犠牲者を殺害する幹部達を、まとめる立場にあったという。Samphan 被告については、実質的な権利は組織のなかではほとんどなかったと見られている。

有罪判決を発表した後、国家検事の Chea Leang 氏は終身刑を言い渡し、「被告人にとって、終身刑は唯一のふさわしい判決である」と述べた。「死刑にされた人や、疲労で死んだ人、食べ物や水や薬がなくて死んだ人。彼らはもう戻ってくることはありません。家族は二度と再生されません。それでも、今回の有罪判決が出たことによって多少の正義が私達が取り戻し、これまでずっと苦しんできた人、もう死んでしまった人の想いを尊重することができます」と述べた。

一方で弁護団は、判決についてそこまで楽観的でないという。Chea 被告の弁護士を務めた Victor Koppe 氏は、Chea 被告は判決に驚いた様子をまったく見せなかったという。「今回の裁判に、かれは一切の期待も自信も持っていませんでした。ただ、判決を聞いて予想が確信に変わっただけのようです」と話す。かつてシェムリアップ州でクメール・ルージュに拘留された経験を持つ Sum Rehy さん 60 歳は、判決に思わず飛び上がりそうだった、という。「今回の判決には、本当に感謝しています。私は 2 年間、刑務所に入れられていました。その時間を取り戻すことはできません。判決が出たことの嬉しさに、いま私は泣いているのです。わたしの父、3 人の兄弟を私は失っています」と話した。

また、Tol Tes さん 80 歳は、コンボントムに暮らしていたチャム族のひとりであるが、彼もまたクメール・ルージュの手によって兄弟達を失ったが、今回の判決を聞いて助けられる心地がしたと話す。しかし、58 歳の Suon Vanthan さんは「ただ終身刑だなんて、軽すぎます。来世までずっと苦しむべきです」と話す。Vanthan さんはプレイベン州に暮らしており、間一髪で処刑を免れていた。「被告たちの罪は国を地獄に変えた、最悪のものです。彼らが教育を受けた者達だったのだから、なおさらたちが悪かった」と語った。長い間裁判を傍聴し続けた Open Society Justice Initiative の Heather Ryan 氏は、「昨日は、裁判にとってもカンボジアにとっても、大変重要な一日となりました。判決を聞いて、わたしも嬉しく思いました。今回の判決に、間違いはありません」と話した。

## 8. ベトナム南部モクバイ国境検問所、新料金で混乱

ベトナムのファン・ビン・ミン副首相は19日の南部タイニン省向け文書で、同省モクバイ国境検問所での渋滞解消を要請した。副首相の文書は、同検問所で新しく導入された高額料金のため、カンボジア向け貨物が滞っていると報道を受けて出された。タイニン省人民委員会は15日、250万ドン(約117ドル)~200万ドン(約94ドル)の料金徴収を開始した。運輸会社は、新料金が高額であるばかりでなく、予告なしに開始されたと指摘。カンボジア側業者との契約に新料金を含められず、カンボジア側への問い合わせや、その返答待ちで国境検問所前の渋滞が起こったという。

19日に開いた省人民委員会の記者会見で、フイン・バン・クアン副委員長は、新料金が政府と財務省の決定で導入されたと釈明し、運輸会社からも意見を集めたと述べた。クアン副委員長によると、同省のモクバイ、サーマット両国境検問所のこれまでの料金は、北部の検問所の50~70%に過ぎなかったという。さらに、交通渋滞はカンボジア側検問所の営業時間が短いせいでもあると指摘。ベトナム側が午前6時から午後10時まで開いているのに、カンボジア側は午前7時にならなければ開かず、昼にも2時間半の休みがあるとした。しかし、クアン副委員長は新料金の周知が効果的でなかったことも認め、今後、検問所の手続きを簡素化し、通関迅速化を行うとも表明した。

## 9. 最近の外資の進出状況

### ・タイのトンブリ病院、カンボジア進出

タイの私立病院チェーン運営大手トンブリ病院グループ(THG)は、プノンペンでベッド数 150 床程度の病院の運営を目指す。

### ・中国の中航工業、カンボジアで空運事業

8/21、中国の航空機製造最大手の中国航空工業集団は、カンボジアに航空会社「カンボジア・バイオン航空」を設立した。年末にも運航開始する見通し。運航機材は中国産ターボプロペラ旅客機「新舟(MA)60」型機とエアバスの「A320」型機を導入する予定。バイオン航空は21日の開業式典で、中国航空工業からMA60型機20機を購入する契約に調印した。年内には2機を導入する計画。

### ・米社がカンボジア投資検討、太陽光発電と精油所

複数の米国エネルギー関連企業が、カンボジアへの大型投資を検討している。実現すれば総投資額は9億米ドル(約900億円)になる。

### ・中国系バイオン航空、カンボジアで発足

中国国営の中国航空工業(AVIC)傘下の幸福航空(ジョイ・エア)は、カンボジアの航空会社バイオン航空を正式に立ち上げた。早ければ12月にも運航を開始する。

### ・タイプア、カンボジアにタイヤ用ゴム工場

タイのゴム製品大手タイプア・ラバーは、カンボジアでゴム事業に乗り出す。現地の農地10万ライ(1万6,000ヘクタール)のうち5万ライでゴムの木の植え付けを完了。

### ・バンコク銀行、カンボジア支店の営業再開

バンコク銀行は、閉鎖していたプノンペン支店の営業を年内に再開する計画を明らかにした。

### ・カーケアのピークイック、初出店=2年以内に5店舗体制へ

自動車部品・タイヤ販売、車修理などを行うカーケアセンター「ピークイック」は、プノンペンに1号店を出店した。投資

額は2000万バーツ。顧客の反応が良ければ、今後1～2年以内にプノンペンで5店舗体制の実現を目指す。

・古着「ドンドンダウン」、プノンペンに海外初出店

リサイクル古着店「ドンドンダウン・オン・ウエンズデイ」を展開するドンドンアップ(盛岡市)は、プノンペンに海外初の店舗をオープンすると発表した。カンボジア1号店では、メンズ、レディース、キッズ、服飾雑貨を扱う。

・マレーシアのワ・セオン、カンボジアで電力販売契約を締結＝もみ殻発電を計画

9/05、マレーシアで石油・ガス関連サービスなどを手掛けるワ・セオン・コープは、子会社PMTIエナジー・カンボジアを通じて、カンボジア電力公社と電力購入契約(PPA)を交わしたと発表した。PMTIは契約に基づき、年間4800万キロワット時の電力を発電、カンボジア電力公社に販売する。契約期間は10年。PMTIは、コメのもみ殻を利用するバイオマス発電所をカンボジアのバタンバンに建設する計画。

以上